

第303回薬事委員会報告

日時 令和6年 4月 3日（水）15:00～16:00
場所 病院会議室A
出席者 升谷、高松、川浪、堀、今福、戸川、小松、長谷川、塩出、神村、兼重
欠席者

議 事

I. 医薬品新規採用の適否について

	適否	採 用 医 薬 品	削 除 医 薬 品
1	適	アレックスビー筋注用	—※1
2	適	ライザケア輸液※2	放射性クロム酸ナトリウム
3	適	ルタテラ静注※2	—※1
4	適	ビオフェルミン散剤（1g/包）	ラックビー微粒N
5	適	モノヴァー静注500mg	プレマリン錠0.625mg
6	適	コムレクス耳科用液1.5%	タリビッド耳科用液0.3%
7	適	レケンビ点滴静注200mg	アリセプトD錠10mg
8	適	レケンビ点滴静注500mg	アナフラニール点滴静注液25mg
9	適	エフィエント錠2.5mg	ブリリント錠90mg
10	適	ベネクレクスタ錠100mg	ニンラーロカプセル4mg
11	適	リンパック透析剤TA5	Dドライ透析剤2.75S
12	適	プレドニゾロン錠5mg（旭化成）	プレドニン錠5mg

※1 ワクチン、放射性医薬品は一増一減の対象外
※2 投与患者が確定してからの発注となる。
削除医薬品が先発品の場合は、削除決定後自動的に院外専用医薬品となる。

II. 後発医薬品（GE）の切替採用申請

	適否	AG/BS	製 品 名	削 除 医 薬 品
1	適		トラマドール塩酸塩OD錠25mg「KO」※3	トラマールOD錠25mg
2	適	BS	ペグフィルグラスチムBS皮下注3.6mg「ニプロ」※4	ジーラスタ皮下注3.6mg
3	適	AG	レナリドミドカプセル5mg「BMSH」※4	レブラミドカプセル5mg
4	適	AG	レナリドミドカプセル2.5mg「BMSH」※4（臨時）	レブラミドカプセル2.5mg（臨時）

※3：麻酔科了承済
※4：化学療法委員会了承済 先発医薬品と適応が異なるため、適応が揃うまで先発医薬品も常備する。

III. 試薬・製剤原料等購入申請

薬品名	メーカー	診療科
ハッカ油「ニッコー」（20mL）	ヴィアトリス製薬	耳鼻咽喉科

IV. 新規院内特殊製剤

院内特殊製剤	使用目的	診療科
鼓膜麻酔液（50mL/本）	鼓膜切開時の麻酔	耳鼻咽喉科

V. 臨時購入医薬品（院内専用 患者限定）

新規購入品目（令和6年1月15日～令和6年3月8日）

	製 品 名	申 請 科	申 請 理 由
1	コリナコール点眼液	眼科	MRSA 結膜炎
2	メルスモン	救命救急センター	スティーヴンス・ジョンソン症候群
3	ゾートラム錠150mg	呼吸器内科	非オピオイド鎮痛剤で治療困難な鎮痛、癌性疼痛
4	ランブレンカプセル50mg	呼吸器内科	非結核性抗酸菌
5	ジェノトロピンゴークイック注用12mg	小児科	SGA 性低身長症
6	ビオフェルミン配合散	小児科	腸炎
7	サイモグロブリン点滴静注用25mg	内分泌・糖尿病内科	膵島移植
8	マンジャロ皮下注5mg アテオス	内分泌・糖尿病内科	2型糖尿病

9	レケンビ点滴静注 200mg, 500mg	脳神経内科	アルツハイマー病による軽度認知障害
---	-----------------------	-------	-------------------

VI. 院外専用医薬品の追加承認（令和6年3月8日時点）

クラシエ五苓散料エキス錠	ソグルーヤ皮下注 15mg	ベピオローション 2.5%
マラロン小児用配合錠	ミッドペリック L250 腹膜透析液 2.5L（排液用バッグ付）	レイボー錠 50mg

VII. 販売名変更のご案内

	区分	新 販 売 名	旧 販 売 名	販売名変更時期	経過措置期間 （予定）
1	常備 （膝島移植用）	カナマイシン硫酸塩注射液 1g 「明治」	硫酸カナマイシン注射液 1000mg 「明治」	2023 年 12 月	2024 年 9 月末
2	常備 （負荷試験）	LH-RH 注 0.1mg 「ニプロ」	LH-RH 注 0.1mg 「タナベ」	2023 年 12 月	2024 年 3 月末

VIII. 販売中止に伴う切替採用申請および採用削除

（販売中止に伴う切替採用申請）
該当なし

（販売中止にともなう削除）

	区分	製品名	販売中止時期 （経過措置期間）	同 効 採 用 薬
1	常備	ファーストシン静注用 1g バッグ S	2024 年 7 月	セフェピム塩酸塩静注用 1g 「サンド」 など

IX. 供給遅延・供給停止等のお知らせ

（供給遅延・供給停止等に伴う切替採用申請）

	区分	切替採用候補薬	薬 効	供給遅延、停止中の採用薬
1	常備	グリセオール注（200mL）	頭蓋内圧亢進・頭蓋内浮腫治療剤・眼圧降下剤	グリセレブ配合点滴静注（200mL）
2	常備	ミダゾラム注射液 10 mg 「NIG」	催眠鎮静剤	ミダゾラム注 10 mg 「サンド」

（供給遅延・供給停止）（資料 1）

X. 副作用報告

医薬品副作用被害救済制度の承認件数は 1 件であった。
（副作用：顎骨の骨髄炎・骨壊死 被疑薬：ビスホスホネート製剤 救済請求：医療費、医療手当）

2024 年 1 月～2 月の副作用報告件数は 99 件であり、そのうち非重篤なものは 96 件、重篤なものは 3 件（下記記載）であった。

副作用発現日	年齢	性別	被疑薬	症状	転帰	報告者	PMDA 副作用報告
2023/12/22	70	男性	テセントリク点滴静注	脳炎(irAE)	軽快*	薬剤師	済
2024/2/5	73	女性	マンニトール S 注射液	急性低 Na 血症	軽快*	薬剤師	無
2024/01/02	62	女性	ボラプレジンク OD 錠 75mg 「サワイ」	肝障害	軽快*	薬剤師	無

*医療用語では明確な定義はないが、広辞苑によれば回復は健康状態に戻ること、軽快は病気が少しよくなることを意味する。

XI. その他

1. 適応外・禁忌医薬品使用に係る申請

	申請科	薬品名	使用目的	倫理委員会審議の必要性
適応外	眼科	ゲンタマイシン硫酸塩注射液「日医工」	角膜潰瘍	あり
適応外	呼吸器内科	ランブレンカプセル 50mg	非結核性抗酸菌症	なし
適応外	救命センター	ゲンタマイシン硫酸塩注射液「日医工」	右腫骨髄炎	あり
適応外	救命センター	フィブロガミン P 静注用	髄液漏	なし
適応外	消化器外科	プレタール OD 錠	洞性徐脈	なし
適応外	産婦人科	インテバン坐剤	切迫流産、切迫早産	なし
適応外	脳神経内科	プリピナ点眼液	重症筋無力症	なし

2. 薬事ニュース No. 105 （資料 2）

3. 新本館引越しにおける医薬品の採用薬整理（資料3を下記に記載）

令和5年度に年間使用実績がない薬剤、または使用患者が1-2名程度である薬剤、包装単位で新規購入がない薬剤について、在庫の必要性を関連診療科の医師に検討をお願いした。下記薬剤は、①正式採用薬から臨時購入医薬品、②正式採用薬から削除への採用区分変更の了承を得た。臨時購入医薬品、削除の了承を得た薬剤については在庫限りでオーダーの制限をすることとする。抗菌薬については使用頻度の低い薬剤、同種同効薬を感染制御部で取りまとめてもらい、整理することとなった。

今後の方針として、緊急時に使用する薬剤を除いて1年間使用がない薬剤は臨時へ、臨時で1年間使用がない薬剤は削除することとする。

機能評価において採用品目数が多いという指摘もあるため、今後、同種同効薬の整理も合わせて提案していく。

臨時購入医薬品は、購入願の申請書をもとに発注管理を行っているため、書類の提出を徹底していただきたい。

① 正式採用→臨時購入医薬品への変更

シダキユアスギ花粉舌下錠2,000JAU	ノイトロジン注50μg	プラミペキソール塩酸塩LA錠1.5mgMI「オーラ」
レボトルカプセル200mg	注射用フィルデシン3mg	PPSB-HT静注用200単位「タケダ」
ミリプラ動注用70mg	ミリプラ用懸濁用液4mL	ヒューマトロップ注射用12mg
イムセラカプセル0.5mg	スーテントカプセル12.5mg	硫酸ポリミキシンB錠25万単位「ファイザー」

② 正式→削除への変更

コントミン筋注10mg 0.5% 2mL	コントミン筋注25mg	カルボカインアンブル注1%(10mL)
オクソラレンローション0.3%	エストリール膣錠0.5mg	カルメロースナトリウム原末「マルイシ」
ジェノゲスト錠0.5mg「モチダ」	イオプロミド300注50mL「BYL」	イオプロミド300注100mL「BYL」
ロンサーフ配合錠T20		

4. 後発医薬品使用体制加算について

2022年4月以降の後発医薬品の割合は90%以上、カットオフ値50%以上である。

後発医薬品使用体制加算1（47点→87点：入院期間中1回に限り、入院初日に算定）の取得継続が可能となった。

今後も、現状を維持すべく後発医薬品の使用を推進していく。

	12月	1月	2月
全医薬品の規格単位数量 (①)	585,651	490,291	490,291
後発医薬品あり先発医薬品及び 後発医薬品の規格単位数量 (②)	323,636	269,660	270,272
後発医薬品の規格単位数量 (③)	294,696	248,884	248,884
カットオフ値の割合 (②/①)	55.26%	55.00%	55.12%
後発医薬品の割合 (③/②)	91.06%	92.30%	92.30%

5. バイオ後続品使用体制加算について

令和6年度診療報酬で新設され、(1)直近1年間の使用回数が100回以上かつ、(2)≥80%、(3)≥50%でバイオ後続品使用体制加算（バイオ医薬品を使用する患者について入院初日に100点）の取得が可能となった。(1)については、年間使用回数が100回以上であることを確認した。

	置き換え割合80%以上	置き換え割合50%以上
バイオ医薬品の内、バイオ後続品の 規格単位数量の合計 ①	3,721	9,236
バイオ医薬品の規格単位数量の合計 ②	3,841	12,982
①/②	(2) 96.9%	(3) 71.2%
	(イ) エポエチン (ロ) リツキシマブ (ハ) トラスツズマブ (ニ) テリパラチド	(イ) ソマトロピン (ハ) エタネルセプト (ホ) ベバシズマブ (ト) インスリンアスパルト (ロ) インフリキシマブ (二) アガルシダーゼベータ (ヘ) インスリンリスプロ (チ) アダリムマブ

6. その他

- ・今年度の薬事委員会開催日時について（資料4）
- ・薬事委員長は精神神経科の堀先生が任命された。
- ・本委員会から感染制御部部長の戸川先生が薬事委員として参加することとなった。

※2024年3月11日現在の総採用品目数は2,579品目であり、うち後発医薬品は628品目（24.3%）である。

次回薬事委員会は、令和6年6月5日（水）15時より病院会議室Aで行う